

# 光受寺通信

NO. 184 R6・5・1 発行  
発行元 光受寺



**老々介護。**最近よく耳にする言葉ですが、私たち夫婦にもいよいよ現実的になってきたように思われます。

現在の状況であれば、どちらかが介護を要する状況になっても何とかできるように思われますが、さらに高齢となり、それぞれ体力に自信がなくなった時には、相手の症状にもよりますが、自宅での介護は難しくなるのかもしれない。

私たちの親の時代では、大抵の場合は自宅で介護されて生涯を終えていかれたのですが、現在では核家族世帯が主流となり、必然老々介護となってしまふのです。時代の流れだといえればそれまでですが、何か寂しい思いがしてなりません。

**「パンコロ」。**私たちが望む老後の生き方として、冗談とも本気ともとれる言い方をされる方がありましたが、確かに誰しもがそんな思いになられることは、今の社会情勢からすれば理解できるように思われてきます。しかし、はたして死ぬが死ぬ寸前まで元気で居られて、いざ死が迫ってきたときは、コロッと死ねればこれ以上ない最期だと本当に思われるのでしょうか。

誰にも迷惑もかけずに「よい最期でした」と、耳にすることもありますが、迷惑をかけて亡くなれば「よくない最期」なのでしょう。それは誰にとって。私はあえて迷惑をかけようとは思いませんが、迷惑をかけずには生きられないのが人生なのです。「迷惑」は「お互いさま」の意識を持って生きることが大切だと思うのです。「迷惑」かけてすまないね、の思いが通じ合う家族関係や、社会との関係が失われていく事の寂しさを感じているのは私だけでしょうか。

## 光受寺学習会

『歎異抄』に学ぶ 四月二十日(土) 午後2時

さて今回は『歎異抄』第8条を学びました。テキスト(東本願寺出版 歎異抄)

### 原文

念仏は行者のために、非行非善なり。  
わがはからいにて行ずるにあらざれば、非行といふ。  
わがはからいにてつくる善にもあらざれば、非善といふ。  
ひとえに他力にして、自力をはなれたるゆえに、行者のためには非行非善なりと云々。



※ 行 者 本願を信じる念仏者

※ 非行非善 自らがさとりを得るために修める行や善ではない。

※ はからい 自分の努力を救いに役立てようとする自力の心

※ ひとえに 他力にして 念仏はただ阿弥陀仏の本願のはたらきであって

わが浄土真宗の親鸞聖人がお勧めになつて信じる信心は、少しも自分のはからいをまじえる必要がないということなのです。

雑行や雑修をたのみとするはからいを捨てて、ただふたころなく「阿弥陀仏」の本願を信じ、疑いなくお従いするばかりなのです。

皆さんが平生のお勤めで拝読されている第5条のお文の、第18通などにも「当流聖人のすすめまします安心(あんじん)というは」として繰り返し自力の心(はからい)を捨てよと述べられていますので、心して読んでみてください。

## 今月の掲示板

念仏は

今のありがたさを

見出す知恵です。

金子大栄

私たちは今自分が置かれている環境や状況に  
なかなか満足できず、不平不満ばかりを言って生  
きているのが現実です。  
お念仏に出会い、改めて自分の今を振り返って  
みる時、今の環境や状況がいかに多くの尊いご縁  
によってあるかが、そのありがたさがしみじみと  
知らされて来るのです。

お知らせ

学習会（同朋会）

五月十八日（土） 二時より

歎異抄 第九条 を学びます。

お気軽にご参加ください。

お寺サロン

今月は**第二の木曜（9日）に変更**  
になりました。（地獄について）

午後一時半より 光受寺にて

「存じでしたか、この花の名前？」

「二三年前からのことでしょうか、境内にこの花  
があちらこちらでみられるようになりました。」

庭の雰囲気を変えような花でもなく、かわいら  
しい花でしたので、「もつと増えるとよいな」ぐらい  
に思っていました。

今年もあちらこちらでみられるようになって、喜  
んでいましたが、驚くことに全国で生息地を広げ  
「生態系に大きな影響を与える外来植物」である  
ことをテレビの放映で知りました。



名前は「ナガミヒナゲシ」というのだそうで、毒性成分が含有さ  
れていて、直接に素手で触れると危険なのだそうです。「アロパシ  
ー」とかいう毒素は活性が強いそうで、他の植物の生育を阻害し  
たりするようなのです。

思い返してみれば、前年あんなにもきれいに咲いていた梅の木  
が、一気に枯れた状態になってしまったのはこの花の精なのかも  
思われて きました。

下の写真のような実となって、種子を拡散  
するようで、実が成熟する前に処分すること  
が肝要だということのようです。

ああ、知らなかったな。



## ままごとのような野菜作りから始まりました。



私は数年前から小さな畑をやり始めました。きつかけは  
駐車場と畑とお貸ししていた土地が返却されたことか  
ら、畑部分だけでも何か作ってみようと思ったことからし  
た。あるご門徒さんから花の苗を頂いたり、野菜の苗を頂い  
たりしながら、まずは農業の物まねからはじめたのです。

草の管理が大変でしたが、それでも枝豆やトウモロコシ、  
百合や菊の花が育ってくれました。いまでもその百合の花は  
畑で毎年立派な花を咲かせてくれていきます。（一部境内に  
も移植してあります）この百合は本堂のお供え用として育て  
ているのですが、背も高くとても長持ちして、大変重宝しています。

昨年暮れには、もち菜や白菜、ホウレン草など作りましたが、日が当たらない  
場所なので育ちが悪く、大失敗してしまいました。現在は、これも頂いたトウモロコ  
シ、レタスを植えました。今のところは順調に育っているようです。

そして何よりも畑は、土に触れることによって生きている実感が持てる場所なので  
す。少し大きさに聞こえるかもしれませんが、大地にはそんな不思議さがあるよう  
に思えてくるのです。

収穫の喜びもさることながら、自然とのかかわりの中で、  
様々に人生を学ばせていただいています。

南無阿弥陀仏

